

# 報恩講

ほうおんこう


日程:2024年 11月17日(日)

受付: 13:00  
 勤行: 13:30  
 法話: 14:20～15:30  
 落語会 16:00～17:00


午後からの開催のため、精進の昼食はありません。  
 報恩講独特の正信偈です  
 お隣 奥沢の究竟寺住職 田宮真人さん  
 1年ぶりに菊之丞師匠ご出演。

報恩講では、親鸞聖人が本願念仏の教えを、私達にまで届けて下さったというご恩に報じると共に、自らの人生とも出遇い直していくという意味が込められています。人であることの心を知らされる時間でありませす。皆様のご先祖様や、多くの諸仏の思いが私達に受け継がれて、広がることを願いとして、報恩講が勤まります。。南無阿弥陀仏。

報: むくいる。しらせる。  
 恩: 与えられた恵みと慈しみ。  
 講: あつまり。場所。



**法話: 田宮真人氏**  
 奥沢 究竟寺住職  
 『本願力に遇いぬれば、空しくする者なし』  
 奥沢の究竟寺より、新しくご就任された、若き住職、田宮真人さんに報恩講への思いをご法話でお願い致しました！



**落語会: 古今亭 菊之丞師匠**  
 古典2席 木戸銭・1500円  
 銀の鈴幼稚園ホール  
 開場15:30 開演 16:00  
 こちらも若き真打、人気の古今亭菊之丞師匠の噺が臨場感たっぷりで楽しめます。お誘いあわせお越してください。

**報恩講仏具おみがきの会**  
 11月12日(火)午前10時から  
 報恩講にむけて仏具をみがく会です。是非お手伝いをお願いします。皆様のご参加お待ちしております。浄行寺本堂にて  
 仏具を洗ったあと、水拭きと専用クロスで磨きを行います。そんなに汚れませんが、作業できるお服装でお願いします。

**報恩講 ご懇志のお願い**  
 報恩講開催にあたり、受付にて皆様よりご懇志を賜りますようお願い申し上げます。  
 お寺に直接お参りにお越しになれない方は、同封の振込用紙、または銀行振込、現金封筒等でご懇志をお寄せいただけると幸いです。  
 銀行振込み口座 三井住友銀行・田園調布支店 0126150  
 宗教法人・真宗大谷派・慈光山 浄行寺



おしゃべりしながら、おみがき。

## 今後のお知らせ ゆうりん「秋号」

「ゆうりん」が年4回発行となりましたので、すこしまとめて告知いたします。

■元旦 修正会 1月1日(水・祝) 午前11時  
 お寺の初詣の会です。お屠蘇、お汁粉などのお振る舞いがあります。

■初同朋会&新年会 1月11日(土)午前11時 会費3.000円  
 はじめての法話会と座談会のあと、客間で新年会をします。お酒やソフトドリンク、お料理を頂きながら、ご一緒に楽しくすごしましょう。  
 申し込みはお電話か、右のQRコードをスマホで読み取ると申込フォームが出て参ります。



■来年の年忌法要ご案内を差し上げます。  
 令和7年、2025年のご法要にあたるご先祖の年忌法要のご案内をさしあげます。来年6月までの分は12月中に。6月以降は4月中に郵送または登録LINEでお送りいたします。

■来年のお彼岸、お盆のご自宅参勤伺いのお知らせを差し上げます。  
 令和7年、2025年の3月春お彼岸、新盆、7月、8月お盆、9月秋お彼岸の、年間ご自宅参勤ご希望をお聞きするご案内と返信葉書をお送りいたしますので、お申込みをお願いします。

春のお彼岸法要は3月20日(木) 午後2時です。

## 9月彼岸法要メモリー



副住職による法話

▼今年もとにかく厳しい夏でありました。このお彼岸法要にまで暑い日が続いておりませんが、意外にも過ごしやすい気候に包まれながら法要を迎えられたと思います。  
 法話は「蟬(けいこ)春秋(じゅんじゅう)を識らず、豈に(あに)、この伊虫(いちゅう)朱陽の節も知らんや」という言葉をテーマに話しました。蟬とこけいこのお話です。  
 ▼親鸞聖人は、蟬には春秋がわからない生き物だ、というが、なら夏という季節も知るはずがない「だろ」と述べた一説があります。この言葉は親鸞聖人自身、本願に対する信心を確かめるにあたって、蟬のいのちから学ぶ親鸞聖人の姿そのものです。  
 ▼私たちは春夏秋冬の気候を肌で感知が出来るから、その季節に恥じて生きる術を知っています。私たちは蟬と聞けば「夏の風物詩」と定義づけて話してきませんか。そして蟬とは次の季節を迎える前に短い命であるということも事実と知っています。もし私が「実は人はではなく蟬だ」と知らされたならば…現実的ではない例え話ですが、知るといいのは良いことばかりではないと聞くことですね。仏教というのは、本当にあなたは人として生きておられますか?という視点で命の尊さということを伝えていきます。つまり親鸞聖人が蟬を用いて伝えたかったのは、人間はいのちについて知っているようではないものなのだとおっしゃっています。  
 ▼私達はいつか必ず死を迎えます。死は必ず迎えると分かっているが、それは悲しい事実、生きる上での苦しみ、そして絶望…そんな心で聞いてしまうと死であるかもしれぬのです。それでもなぜ今まで生きてこられたのかは、生きていてこそ問われるのだと思います。  
 蟬は智慧、すなわちありのままの生を刹那に感じながら一声一声、精一杯鳴いているのです。私達は悲しいかな常識として計る物差しを手放せない凡人です。死という苦しみの事実には背かがあります。そんな姿でも今を生きていくとは何かを知るべき存在です。

